



今月の題字  
 柏谷 優人 くん  
 (織笠小3年)

# 町のあだこ

## 燃料と医薬品確保の協定締結 災害時の協力を互いに約束

町では、1月13日に県石油商業協同組合宮古支部(佐々木勲支部長)と宮古薬剤師会(熊谷壯一郎会長)の2団体と災害時の協力協定を締結しました。この協定は、災害が発生したとき、燃料や医薬品などを優先して供給してもらえることについて定めたものです。調印式では、沼崎喜一町長と佐々木支部長、熊谷会長がそれぞれ協定書に調印し、災害時での協力体制を築き上げていくことを約束しました。沼崎町長は「この協定により町民の安全安心が確保できると期待しています。今後はお互いに連携を密にしていきたい」とお礼を述べました。



災害時区不  
 和供の科燃時  
 岩手県石油商業協同組合宮古支部

県石油商業協同組合宮古支部と災害協定を締結(上写真) / 医薬品供給の協定書に調印する沼崎町長と熊谷会長



「女性の立場は確立されていない」と講演した山崎久民さん(丸写真) / パネルディスカッションでは活発な意見が交わされました

## 男女共同参画セミナーに120人 女性の諸問題に活発な意見

1月18日、農漁村での女性を取り巻く問題をテーマに男女共同参画セミナー(町と県男女共同参画センター主催)が町中央公民館で開かれ、町内外から120人が参加しました。講演では、「WAN研究所」代表取締役の山崎久民さんが「活気ある地域づくりに向けたパートナーシップ」と題して、農漁家の女性が対等な立場にないことを訴えました。この後、本町で農漁業を営む大町富子さん(大沢)、渡磯綾子さん(渡磯)、吉川淑子さん(荒川)によるパネルディスカッションが行われ、本町での女性の現状について活発な意見が交わされていました。

## 吉崎教授が採取した海藻標本 豊かな海感じてほしいと寄贈

東邦大学名誉教授の吉崎誠さん(千葉県成田市・67)が昨年12月21日、海藻押し葉標本8万点と海藻液漬け標本2千点を町に寄贈しました。昭和41年に国立科学博物館の海藻調査で本町を訪問した吉崎さんは、平成6年に再び訪れた際、同じ場所に28年前と同じ海藻が生えていたことに驚嘆。それ以来、本町で海藻を採取し続け、その成果品を町民の皆さんに豊かな海を感じてほしいと願い贈ったものです。沼崎喜一町長は「貴重な資料を寄贈いただき感謝します」とお礼を述べ感謝状を手渡しました。

